

今年は春が早く、山桜も彼岸桜もあっという間に開花しました。色とりどりの花木や新芽の萌える景色はまさに「山笑う」という表現がぴったりで、身体も心も軽くなり活動的になれそうです。

そんな中、川本商工会婦人部の研修にがん検診啓発サポーターとしてお伺いしました。皆さん熱心に耳を傾けて下さり、心通うひと時を過ごせたように思います。サロンの開催から運営において、様々な立場の方に多くの支えを頂いています。その支援に対して感謝するとともに、少しでもお返しができるよう今後も活動して参ります。

がん検診啓発サポーター活動報告

- ・参加者 女性19名 60歳以上の方が約6割
- ・8割以上が、ご自身や家族、身内のがんを体験
- ・最初に少し質問を行った。

がんについて「2人に1人が生涯のうちに罹る。必ず死んでしまう怖い病気ではない。早期発見のためには、がん検診が大事」と、ほとんどの参加者がわかっておられた。

・体験談では、実際の経過や心の変化に加え、治療費や仕事との両立、がんに関する制度も含めての情報の取り方なども紹介した。

- ・乳がんモデルでの体験と自己検診紹介。
- ・がん検診を多くの方が受けるために、事業所や個人としてどんな工夫ができるか話し合った。

◎まずは、今回の参加者同士が声を掛け合って、家族も誘って行くことから始める。

◎川本町の保健師から、複数の事業所が協力すれば「事業所検診」の対象と、紹介があった。

益田がんケアサロン講演会参加

テーマ「生・病・老・看護・死 ～人生会議(ACP)から自己調節鎮痛法(PCA)～」

・「おひとり様でも自分の家で”ピンピンコロリできるねんで”」の上演

・県立中央病院 今田敏宏医師の講演

昨年、当サロン主催の交流会でも、緩和ケアネットワーク大田での講演もACPを取り上げた。最近ではACPを「人生会議」と表現するようだ。文書を作るだけでは意味がなく、それまでの話し合いが表されているものであるべき。また、本人の意思が不明な時は、推定意思を尊重すべきとのことだった。

また、在宅PCAを用い、最期の時を自宅で穏やかに過ごした多くの事例があるようだ。当県でも「出雲PCAシステム」が整備されており、益田でも数事例が報告されている。県西部で在宅PCAを推進するには、課題が多いように思うが、江津での実現を切に願う。

《サロン開催予定》

毎月第3土曜日 9:30～11:30

5月18日、6月15日、7月20日

8月24日(第4土曜日)、9月21日

10月19日、11月16日、12月21日

場 所 保健センター 1階

予約不要 途中参加・退室自由です

お茶代 100円

お問い合わせ先 090-8068-7920 (松浦)

